

「障がい者の人権」

今週のテーマは「障がい者」。丹波篠山市の視覚障がいをお持ちの方からメッセージをいただいていますので、それをご紹介します。

私は、生まれたときより視力が弱く、困っていたのですが、相談をする施設や機関を知らずに、学校は普通校へ通っていました。そのあとの進路に困り、最寄の眼科医の薦めから、17歳で障害者手帳を取得、丹波篠山市内の高校を卒業して、神戸にある県立盲学校（現在：視覚特別支援学校）に進み、手に職をつけ、23歳で丹波篠山市内にてハリ・キュウ・指圧治療院を開設しました。27歳で結婚し、現在3人の子ども達と家族5人で暮らしています。

結婚した当時は、まだなんとか視力もあり少しは見えていましたが、徐々に視力がなくなり、20年前3人目の長男が生まれる頃には視力を失い、息子の顔は見たことがありません。

こんな私ですが、今はくよくよせず日々を楽しく暮らしております。毎朝のウォーキングを皮切りに、仕事はもちろん、料理も作ります。毎日楽しみにしているラジオを聴き、仲間とのライン、ネット検索、YouTubeや動画配信サービスなど、一日忙しいくらいに過ごしております。

でも、こんな風にずっと前向きでいたわけではありません。落ち込んだり、卑下したり、くよくよしたことも正直あります。そんなときに、同じ障がいを持った仲間達との出会い、親睦、交流が私を奮い立たせ、また、前を向いて歩みを進める勇気と元気を与えてくれます。

みなさんの周りに孤独な視覚障がい者の方はおられますか？今年8月調べでは、丹波市内には144人、丹波篠山市内には91人の視覚に障がいのある方がお住まいだそうです。もし、お近くに「見えにくい、見えない」とお困りの方がおられたら、市役所や社会福祉協議会の窓口へ相談してください。そこから、私の所属している兵庫県視覚障害者福祉協議会の地域支部へ繋がっていきます。仲間がいることは本当に強みになります。

そして、視覚障がい者と一口に言っても、全く物が見えない方から「動く物なら見える」とか「光っている物なら見える」など、見え方も様々です。毎日顔を合わせている方でも「私、見えていません」とか「見えにくいんです」と、ご自身から言われるケースは非常に少ないです。それを言い出しにくいです。

みなさんは目が悪い、イコール「白杖」または「盲導犬」と思われていませんか？白杖を持つまでにはかなりの勇気と決断が必要なんですよ！

かく言う私も、白杖を持つまでには、障害者手帳を取得してから11年かかっています。ましてや、「盲導犬を持つ」となれば、決断以上に、訓練や盲導犬に対する世話などクリアすべき条件があって、簡単に貸与を受けることとはなりません。

まずは、視覚障がい者について正確な情報を知ってください。そして同じ地域住民として仲良くしてもらえたら嬉しいです。

